

幽玄かがり火

福山八幡宮で薪能



炎に照らされた幻想的な舞台で観客を魅了した
薪能 (撮影・天島智則)

かがり火がともる舞台で能を上演する「薪能」が二十八日夜、福山市北古津町の福山八幡宮であった。市民ら約千五百人が、夏の夜に繰り広げられる幽玄の世界に浸った。午後六時半、かがり火に照らされた境内の特設

舞台で幕が開いた。能の喜多流と観世流、狂言の大藏流のシテ方らが約二時間にわたり、能や狂言、仕舞など計六演目を披露した。

地元の喜多流大島家からは大島政允さん(64)と長女衣恵さん(31)、長男輝久さん(30)が出演。能の「綾鼓あやぶ」では、女性に恋をして苦悩する老人の役を政允さんが演じ、観客を魅了した。

福山八幡宮は歴代福山藩主が能を奉納したのちにちなんので一九八六年から毎年、薪能を開いている。(山本和明)

06/07/29
中国新聞

back